

4. 『子供の夢』の「綾子」さんを探して

しかしそれまでの調査記録には『子供の夢』なるタイトルも「丹羽五郎」という人名も存在しないことも確かだった。残された手がかりは、主人公の名前が「綾子」さんであることぐらい。けれども幸い、主人公の名前が「アリス」以外である例は比較的少ない。主人公名をチェックしてみたところ、うさぎ山人編『お正月お伽噺』の主人公の名前も同じ「綾子」さんであることが判明した。こちらもまた『国立国会図書館所蔵明治期刊行図書目録』に請求記号「特 46 - 127」として収録されており、その書誌的事項は、

お正月お伽噺 うさぎ山人編 スミヤ書店 明 44.12 254p 19cm

と記載されている。同書はすでに調査済みであったものの、2人の「綾子」さんが同一人物であるかどうか、についてはまだこの時点では確証がなかった。

なお、本稿調査以前に『お正月お伽噺』と「アリス」との関係を論じたものとしては、石川春江氏の「日本における『ふしぎの国のアリス』の初期翻訳」（『参考書誌研究』21号 1980年8月 p.62-63 所収、石川春江著『国立国会図書館の児童書』創林社 1980年9月 p.53-54 再録）があり、本稿調査においても大変参考にさせていただいた。この場を借りて感謝申し上げたい。

5. 『子供の夢』から『お正月お伽噺』へ

結局、『お正月お伽噺』を再度請求し、両者を比較してみることにした。出納された現物の外見は、当然ながら全く異なっていた。けれどもいったん中を開いてみたところ、その本文第1ページはまさに全く同一であった。単に同じ文章というだけではなく、レイアウトや活字の特徴も同一であるように見えた。おそらく同一の組版を用いて印刷されたことは間違いないと思われる。あるいは、『子供の夢』として製本するはずだった本文用紙そのものを使い、新たなタイトルページを付して刊行した可能性もあるかもしれない。

さて、とりあえず本文冒頭部分が同一であることは確認できたものの、それ以外の部分については問題が多い。装丁、タイトルページ、奥付がそれぞれ独自のものであるし、『子供の夢』に付されていた序文や目次が『お正月お伽噺』では姿を消している。また、本文の総ページ数が4ページ減少しているからには、本文のどこかに相違があることも確かである。結構問題が複雑であるので、両者の比較検討を試みる前にそれぞれの調査結果をまとめておき、その後改めて両者の共通点や相違点等を整理してみることにしたい。まず先に『子供の夢』から。

6. 『子供の夢』の表紙とタイトルページ

表紙はボール紙を芯とする、いわゆるハードカバー。外装部分は紙であり、タイトルや装飾画等が印刷されている。各部分の特徴は以下のとおり。

前表紙：タイトル＝「子供の夢」（現物は縦書表記）、バラとトランプの彩色画

背表紙：タイトル＝「こどものゆめ」（現物は縦書表記）

後表紙：出版社名「靱山書店」の4字を配した図案

タイトルページ表面には以下の記載がある。（以下、記号「|」は改行位置を示す）

上部：「長篇 | お伽噺 | 子供 | の夢 | 丹羽五郎編」（現物は手書文字による縦書表記）

下部：「東京 | 靱山書店」（現物は活字による右から左への横書表記）

タイトルページ裏面には何も印刷されていない。表裏ともにページ付けなし。なお、調査対象である国立国会図書館蔵本のタイトルページ表面中央には「明治 | 44. 4. 7 | 内交」のスタンプがある。